



## ■交読 詩篇42篇1～5節

- 1 鹿が谷川の流れを慕いあえぐように  
神よ 私のたましいはあなたを慕いあえます。
- 2 私のたましいは 神を  
生ける神を求めて渴いています。  
いつになれば 私は行って  
神の御前に出られるのでしょうか
- 3 昼も夜も 私の涙が 私の食べ物でした  
「おまえの神はどこにいるのか」と  
人が絶えず私に言う間。
- 4 私は自分のうちで思い起こし 私のたましいを注ぎ出しています。私  
が祭りを祝う群衆とともに 喜びと感謝の声をあげて  
あの群れと一緒に 神の家へとゆっくり歩いて行ったことなどを。
- 5 わがたましいよ。  
なぜ おまえはうなだれているのか。  
私のうちで思い乱れているのか。  
神を待ち望め。  
私はなおも神をほめたたえる。  
御顔の救いを。

■使徒信条 われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて 生けるものと死にたるものとを さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

## ■聖書朗読 ルカの福音書 11章 1～4節

- 1 さて、イエスはある場所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに言った。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」
- 2 そこでイエスは彼らに言われた。「祈るときには、こう言いなさい。『父よ、御名が聖なるものとされますように。御国が来ますように。』
- 3 私たちの日ごとの糧を、毎日お与えください。
- 4 私たちの罪をお赦してください。私たちも私たちに負い目のある者をみな赦します。私たちを試みにあわせないでください。』」

## ■聖歌 230 「たのしき祈りよ」(1～3節)

- ①たのしき祈りよ うきこの世離れ  
みくらに近づき 神と語らしむ  
悩みてありし日 ここにていくたび  
試むる者の 畏(わな)より逃れし
- ②たのしき祈りよ なが羽は運ぶ  
かわける心を わが主の御前(みまえ)に  
みことば唯一の てがかりとなして  
求むるこの身に 安きをもたしむ
- ③たのしき祈りよ わが目は見渡す  
ピスガの嶺(みね)より あめなる御国(みくに)を  
この身はまもなく 肉の衣(きぬ)を脱ぎ  
叫びつつのぼらん 「さらばや 浮世(うきよ)」と

## ■頌栄 聖歌 376 「父 御子 御霊の」

父・御子・みたまの おおみかみに とこしえかわらず  
御栄えあれ 御栄えあれ アーメン